

東奥日報
2022年(令和4年)12月13日(火曜日) (16)

八工大初準V 挑戦15回

「やれること全部やった」



E Tロボコン全国大会で準優勝に輝いた柳沢さん(左)と昆野さん(右)

全国「E Tロボコン」初級クラス

ハ
戸

11月17日に横浜市で開催された「E Tロボコン全国大会」の初級クラスで、八戸工業大学工学部の山口広行准教授が率いる研究チームが準優勝に輝いた。15回目の挑戦での初の快挙に、関係者は喜びをかみしめている。

(野村遥)

大会は「組込みシステム技術協会」(本部・東京)が主催し、初級クラスには地区大会を勝ち抜いた企業、大学、専門学校など30チームが出場。二輪ロボットに各チームが設計したソフトウェアを搭載し、カーブや障害物があるコースを走行させゴールまでのタイム

を競った。

同大チームは4年の柳沢元就さん(22)＝八戸市出身、昆野幹人さん(21)＝岩手県遠野市出身＝らが4月にシミュレーターによる練習を開始。8月ごろからは実際にロボットやコースを使って動作の確認を重ね、細かな調整を繰り返し、精度を高めた。その成果もあり、全国大会本番はエラーでゴールできないチームが続出する中、安定した走行で次々と課題をクリアし見事2位に入った。

柳沢さんは「ロボットを動かす距離を何度も調整した。やれることは全部やったので結果には満足している」、昆野さんは「ロボットが誤作動しないよう、大学とは違う大会会場の照明の当たり具合に気がつけた。これまで懸けてきたことを悔いなく出されて良かった」と充実感をにじませた。

東北大会(9月・盛岡市)は進藤胤真さん(22)＝4年、三沢市出身＝が担当したソフトウェアの設計図の審査も含め総合成績2位で通過したが、基本ソフト(OS)の不具合でロボットが異常終了するなど不完全燃焼の結果だっただけに、山口准教授の喜びもひとしお。「学生がずっと頑張ってきたことを全国大会の舞台で披露できて良かった」とねぎらった。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」